

2017年2月、夏目漱石生誕150周年に向けて

ともに創ろう （仮）「漱石山房」記念館

新宿区は、明治の文豪・夏目漱石が生まれ育ち、その生涯を閉じたまち。区では、漱石生誕150周年の平成29年(2017年)2月の開館を目指して『（仮称）「漱石山房」記念館』を整備します。7月1日から「夏目漱石記念施設整備基金」への寄付の募集を開始します。趣旨にご賛同いただき、是非ともご支援ください。

夏目漱石と新宿区

夏目漱石は、慶応3年(1867年)2月に牛込馬場下横町(現在の喜久井町)で生まれ、大正5年(1916年)12月に早稲田南町で亡くなりました。区内には、数多くの漱石ゆかりの地があります。

江戸時代、牛込周辺の11か町を治める名主だった夏目家。江戸が東京になったころ、漱石の父親・直克が、夏目家の家紋「井桁に菊」にちなんで名付けた町名が「喜久井町」です。自宅前の坂は「夏目坂」と命名され、今でもその名が残っています。

また、漱石の作品には、新宿での生活や体験が刻み込まれています。『坊っちゃん』の神楽坂、『彼岸過迄』の矢来町など、新宿の景色やゆかりの人物が頻りに登場します。

漱石山房とは

夏目漱石は、晩年の9年間を「漱石山房」と呼ばれた早稲田南町の家で暮らしました。この家は和洋折衷の平屋建てで、庭の大きな芭蕉の木や、洋風のベランダが特徴的でした。早稲田南町に転居したころから作家業に専念し始め、この地で『三四郎』『こゝろ』『道草』など数々の代表作を執筆しました。

客間では週1回木曜日に、「木曜会」と呼ばれる文学サロンが開催され、漱石を慕う若い文学者たちの集いの場にもなっていました。

建物は、昭和20年(1945年)の空襲で焼失しましたが、現在は敷地の一部が区立漱石公園(写真下)となっており、漱石山房のベランダ式回廊の一部を再現しています。



公園入口の漱石胸像(富永直樹作)



漱石を発信する活気ある記念館に！

漱石が晩年の9年間を過ごし、「漱石山房」と呼ばれた早稲田南町の旧居跡に、記念館を整備します。

国民的文豪であり、近代日本を代表する知識人である漱石を多様に発信するとともに、誰でも気軽に利用でき、地域にも開かれた記念館として整備し、漱石山房の「土地の記憶」を未来に継承していきます。



漱石山房の再現イメージの一例

漱石に関する本を
読みながらゆったり
過ごせる図書室や
カフェを設置

常設展のほか
企画展や講座・イベン
トを開催、漱石文学の
世界を紹介

記念館内に
書斎・客間・ベランダ
式回廊など「漱石山
房」の一部を再現

「夏目漱石記念施設整備基金」をスタートします！

7月1日から寄付を募集します

本記念館の整備にあたっては、国民的文豪・夏目漱石の名にふさわしく、全国の漱石愛好家や漱石を研究されている方々、文化芸術振興にご理解の深い企業のお力添えをいただきながら進めていきたいと考え、このたび「夏目漱石記念施設整備基金」を設置し、7月1日に寄付の募集を開始します。

2017年夏目漱石生誕150周年に向けて 新宿区夏目漱石記念施設整備プロジェクトVol.1

講演会とシンポジウム 夏目漱石と「現代を生きる」 ともに創ろう (仮称)「漱石山房」記念館

【日時】7月14日(日)午後2時～5時(午後1時30分開場)

【会場】早稲田大学大隈記念講堂大講堂(西早稲田1-6-1)



姜尚中氏

♪東京フィル楽団員の演奏もあります

講演「漱石と現代」

【出演】姜尚中(政治学者・聖学院大学全学教授)

シンポジウム「ともに創ろう(仮称)「漱石山房」記念館」

【出演】

半藤一利(作家)

半藤末利子(エッセイスト・漱石の孫)

姜尚中

中島国彦(早稲田大学文学学術院教授)

牧村健一郎(朝日新聞社記者)

中山弘子(新宿区長)

★定員1,100名(申込み要。応募者多数の場合は抽選)★